

2011/7/28

東日本建築教育研究会

計画分科会 資料

計画分科会テーマ決定までの経緯と協議会の流れ

昨年度まで...

「住宅設計の評価指標」 平成 20 年度 LDKの家具や設備の配置計画

平成 21 年度 夫婦寝室の設計

それぞれ評価基準を設定し、生徒実践例を評価し研究協議した。

「考えるための紙模型」 平成 22 年度 小住宅の紙模型の制作（1：50）

平面から立体への展開を、模型で理解させるねらい。

過去 3 年間は平面計画や断面の把握などプランニングを中心とした内容となりました。
分科会としてはテーマに区切りをつけ、新たなテーマを模索しました。

新たなテーマとして...

計画分科会では、建築計画の導入部分の指導法について焦点を絞りました。

建築計画の導入では、生徒が建築に興味を持つように、各先生方において工夫されている部分もあろうかと思えます。そこで、建築計画教科書の第 1 章を中心に指導法等の意見交換をすることで、今後の指導に役立てることを目的としました。

事前調査として...

研究協議会に参加される先生方には、導入部分である建築計画教科書の第 1 章を中心にアンケートをお願いし、教科書の取り扱う内容や補助教材の調査をお願いしました。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

研究協議会の流れ...

アンケートを中心に、グループに分かれて指導内容の意見交換を行い、数名の先生に発表をしていただく予定です。

建築計画の授業アンケート 集計結果

「建築計画の導入」～建築の魅力を感じさせるには？～

建築計画についてお答え下さい

・学校・学科名をご記入ください	高等学校	科
・記入された先生の氏名	先生	
・教えている学年・必修、選択・単位数についてお答え下さい。	学年	必修・選択__単位
	学年	必修・選択__単位
	学年	必修・選択__単位

教科書 第1章「建築計画の概要」について以下の項目にお答え下さい

	必ず携わる	触れる程度 に携わる	触れない
・第1章「建築計画の概要」の各項目について具体的にご記入下さい。(印)			
【1】 建築計画のあらまし			
a 1 建築計画の意義 p.8	6	3	
b 2 建築計画の進め方 p.11	5	4	
【2】 条件の把握			
c 1 条件の種類 p.13	5	4	
d 2 内的な条件の把握 p.13	5	4	
e 3 外的な条件の把握 p.14	5	4	
【3】 基本計画			
f 1 基本計画の進め方 p.17	6	3	
g 2 計画目標の設定 p.17	7	2	
h 3 全体計画 p.18	7	1	1
i 4 各部の計画 p.29	5	2	2
j 5 構想の表現 p.32	4	4	1
k 章末問題 p.34	3	2	4
<p>・教科書事例「住宅団地に建つ集会所」を取り扱っていますか。(印)</p> <p style="padding-left: 20px;">はい = 3名 いいえ = 6名</p> <p>「いいえ」と回答された場合</p> <p style="padding-left: 20px;">どのような事例を取り扱っていますか</p> <p style="padding-left: 40px;">(住宅 4名 公共建築 学校)</p>			
<p>・教科書以外の補助教材を利用していますか。(印 複数回答可)</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 書籍(書籍名: 建築計画演習ノート2名 宮脇壇)</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 自作プリント = 5名</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ インターネット(URL: パナソニック電工)</p> <p style="padding-left: 20px;">エ その他(自由設計)</p> <p style="padding-left: 40px;">当日、ご持参いただければありがたいです。</p>			

ご協力ありがとうございました

計画分科会 研究協議会まとめ

テーマ「建築計画の導入」 ～建築の魅力を感じさせるには？～

参加者数 14名 + 6名(委員)

協議の流れ

グループディスカッション方式

: 1グループ4～5人で4グループでの協議(1グループ当たり1人の委員をコーディネーターとして当てる) 協議時間 40分

協議内容 事前に応募されたアンケートより建築計画の教科書第1章をどのように教えているか、各班で協議を行う。また、各学校で取り組んでいる導入部分を補うような資料、または自作の教材などを持ち寄り紹介していただいた。

協議結果

グループ 『建築計画の学習開始時期によって導入が異なる』

1学年から：“構造的な内容”を含めた内容が必要

2学年から：ある程度建築的な理解があるため本来の計画的な授業展開が可能となる

グループ 『住宅を導入に使ったほうが生徒にとって身近である』

建築製図との連動を図る

サザエさんの住宅を使ったブロックプランニング演習

グループ 『住宅のデザインの面から生徒の興味関心を引きつける必要がある』

『建築製図との連動も視野に入れた導入の検討』

グループ 『第1章の内容を基本として設計に結びつける』

3LDKの設計

まとめ

第1章の「集会所」は事例として利用しにくいとの意見が多く見受けられた。代わりに生徒の身近なものである「住宅」を用いた事例の紹介を導入として利用される先生がいる。特に実物の建築の紹介に留まらず、エスキスを含めた設計から紹介されていた。

また、オリジナルの教材として完成された平面図から逆にブロックプランニングを作製するなど工夫がみられるものが紹介された。

建築計画を初めて習う生徒の到達点として、「基本的な住宅設計」が出来るようになることを目標としている学校が多いようである。



新潟工業高校 斎藤先生



峡南高校 森嶋先生